

第三種郵便物承認 HSK通巻4455号2017年1月8日発行

HSK

会報「石川守る会」

NO.77

石川県重症心身障害児(者)を守る会
全国重症心身障害児(者)を守る会
石川県支部 会長 山本 衛

温暖化のせいか暖かい日が続いていましたが、師走も半ばになるとさすがに寒さも厳しくなってきました。

会員の皆様、お子様達はお変わりございませんでしょうか。

インフルエンザやノロウイルスも流行しています。体調管理には十分ご注意ください。

今年は4月から「障害者差別解消法」が施行され、障害を理由とする差別の解消を推進していくという動きの一方で、重い障害のある人たちを標的にした大量殺人事件が起こるなど混沌とした年でした。

そのような情勢の中で守る会としては重症児(者)には生涯一貫した支援が必要だとして、児者一貫体制の存続を求めて活動してきています。重い障害のある子どもたちが生ある限り安心して暮らせることを願ってやみません。



富山大会に石川より22名参加

11月5日～6日富山県で開催された東海・北陸ブロック大会に石川からは七尾病院、医王病院、石川療育センター、在宅と合わせて22名のみなさんが参加されました。

1日目は富山大学医学部臨床教授 八木信一先生の講演がありました。

テーマ 「富山県の重症児者医療・支援・人材育成」

近年医療的ケアが必要な重症児者は急増していて、人工呼吸器はもはや特別なものではなく生活の手段となってきている。しかし、地域の医療体制が追いついていない現状がある。少しでも現状を進めていくためにはまず実態調査が重要であると指摘された。

富山では八木先生が医師会に働きかけて委員会を立ち上げられたとのこと。その中で在宅小児医療を進めるため小児在宅情報共有システムや中核になる人材育成・研修会を立ち上げられたとのこと。多職種連携のためのネットワーク作りやスキルアップのための実技研修会などにも取り組んでおられるとのことでした。

また将来の担い手育成のため看護学生実技研修会も実施されているとのことでした。在宅の重症児者についての情報を共有し緊急対応時の連携も確認しておくことが必要だと話されました。

- ・ ここ数年在宅の超重症児・準超重症児
20歳未満 5000人から7000人
- ・ 日常の医療的ケアを必要とする在宅の児童は2500人以上

その後4つの分科会に分かれて話し合いがされました。

第一分科会 国立部会

重症児者の児・者一貫制度は維持されていくのか、療育は守られていくのかが話題となりました。度重なる福祉制度の変更によって年齢的に2分化が明確化されてきている。特に18歳以上の入所者・在宅者の療育の維持が困難になるのではと危惧される。重症児者の施策を再構築する必要があるとの助言がありました。

第二分科会 重心施設部会

地域に根ざす施設として在宅サービスも視野に入れていくことが大切
社会福祉法人の目指すものは・社会のセフティネットとしてのサービス
・時代にマッチしたサービスである。それらを提供するためには人材育

第三種郵便物承認 HSK通巻4455号2017年1月8日発行
成と確保が重要であり全国的に課題となっている。対策としては実習生の受け入れなどで学生を育てていくことや待遇改善が求められています。

第三分科会 在宅部会

生活・医療・福祉の3グループに分かれて討議した。ショートステイの地域格差がある。生活に伴う医療確保が必要だが成人になってからの繋ぎが難しい。重い障害の乳幼児を抱え込んでいる母親に対するサービス利用のきっかけ作り。高齢化に伴うディサービス、ショートステイの利用の変化などが話題となりました。

第四分科会 母親部会

兄弟姉妹の思いについて話し合いました。

きょうだい直面する課題としては・年齢相応以上の役割分担や優等生化・親の関心が向かず孤独感・過剰な責任感などがあげられた。親が思う以上にきょうだいは影響を受けているので・親子のコミュニケーションを十分とる・きょうだいに関心を持っていることを伝えることが大切だと話されました。

夜の懇親会では石川の参加者同士顔合わせをしたり、他県の顔馴染みの人たちと情報を交換し合ったりして楽しく過ごしました。

2日目はまず守る会の北村事務局長による中央情勢報告がありました。

○ 重症心身障害児の各種データが紹介されました。

全国の障害児者数は合わせて860万人でその内重症児者は43000人と推計されるとのことでした。

施設入所者(国立 公立 法人)・・・14340人 (推計)

在宅者 ・・・ 28660人 (推計)

○ 障害者総合福祉法と児童福祉法の一部改正について

- ・重度訪問介護のヘルパーの派遣先が居宅に加えて入院時の医療機関にも拡大された。
- ・H24年度の改定時には重症児と者を分離する制度が提案されたが、守る会の運動もあって児・者一貫制度が特例として続けられている。しかしこれもH30年までとされている。

水津副会長からは親としての義務と責任を果たし、多くのみなさんに重症児者のことを理解してもらう活動が大切である。社会の共感を得る運動の推進をとの訴えがありました。

第三種郵便物承認増刊 HSK 通巻4455号 2017年1月8日発行
式典の最後に石川の東副会長から来年の石川大会へのブロック内の協
力のお願いと参加の呼びかけがありました。



「第54回全国大会」石川大会に向けて

11月20日(日)「全国大会」第1回の実行委員会が開かれました。
12人のみなさんが集まってくださいました。
支部として大会まで、また大会当日どのような仕事があるのか確認しま
した。
当日の受付や会場の担当について割り振りをしました。
でもまだまだ人手が足りません。ぜひみなさんのご協力をお願いします

次回の実行委員会は1月21日(土)10時～ 医王病院で行います。
多数の方のご参加をお待ちしています。



編集人	石川県重症心身障害児(者)を守る会
連絡先	929-0123 石川県能美市中町ツ 88-1 TEL.0761-56-0610
発行人	会長 山本 衛 北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 312 番地
定 価	30 円